

静岡市の魅力発信へ「チャレンジして」

女優

伊澤恵美子さん

Emiko Izawa



経歴

静岡市駿河区生まれ。静岡雙葉高校卒業。成城大学文学芸学部卒業。9歳で初舞台に立ち、映画、舞台、CM等で活躍中。2013年、実際の事件を基に映画化された「子宮に沈める」(緒方貴臣監督)に主演し、変貌していく母親という難役を演じきった。最新作は現在公開中の日本とタイの合作映画「アリエル王子と監視人」(稲葉雄介監督)での主演。海外の映画祭でも高く評価されアジアでの公開も決まった。日本画家のモデルのほか、「文具姫」の愛称で雑誌、TVにもたびたび登場。熊本市PR特命大使、「熊本市電COCORO旅」イメージガールを務める。<http://emikoizawa.com/>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

最新作でヒロインを好演

今年7月公開の日本とタイの国際共同製作映画「アリエル王子と監視人」に主演。熊本を訪れた異国の王子の監視役を引き受け、自分の人生を見つめ直すヒロインを好演している。東京などに続き大阪、横浜などで公開予定だ。静岡市では先月まで上映された。

全編熊本を舞台に撮影され、これが縁で熊本市のPR特命大使に任命された。とはいえ、「SNSで静岡市に関する記事

を書いたり、紹介しています」というように、故郷静岡市への思いは半端でない。

9歳の時に静岡市主催の子どもミュージカルに出演し、それが演劇を志すきっかけになったという。「演技の難しさは、いかに自分を殺さずに自分を捨てられるかですね。絶対に譲れない部分と、折れる部分、そのバランスが大事だと思っています」。

育児放棄する母親役を演じた2013年の主演作品「子宮に沈める」で個性派女優としての頭角を現した。「ものすごく

難しい役でしたが、女性が社会的にどういう立場に置かれているかとか、考えさせられました。周りがしり込みする『悪役』はこれからもやってみたいですね」。

10年後見据えた投資を

出演映画のプロモーションなどで全国を駆け巡る伊澤さん。静岡の食住環境の良さ、豊富な資源を「生かされたい」と感じている。「もっと、いろんなことをアピールしてほしいですね。四国の自治体なども東京で非常に多くの広告を見かけます」と指摘する。

JR静岡駅に「のぞみ」が停車しないのは、乗降客数など経済効率性をJR東海が重視しているためとされる。「東京から近い利点を生かして静岡に来てもらう大胆な企画を考えてみてはどうでしょう」。うなずける提案だ。

「全体的に独自のことをやろうという感覚が弱い気がします。熊本市が静岡出身の私をPR大使に選んでくれたことも大きなチャレンジだと思います。独自性を出せばもっと魅力的なまちになっていくと思うんですね」。

一般に投資効果がすぐに出ない分野は「軽視」されがち。伊澤さんは話す。「私があるのは子どもミュージカルがあったから。子どもや若者が10年、20年後に全国、世界にはばたける施策一過性ではない投資をぜひお願いしたいですね」。

(文：長田義明、写真：伊澤さん提供)